

## ASEAN

GDP (2020年10-12月)

## 感染状況、インバウンド依存度、輸出動向で国ごとの明暗分かれる

政策・経済センター  
橋本琢磨  
03-6858-2717

## 1 実質GDP成長率 (四半期)

## 2 観光産業のプレゼンス (20年)

## 評価ポイント

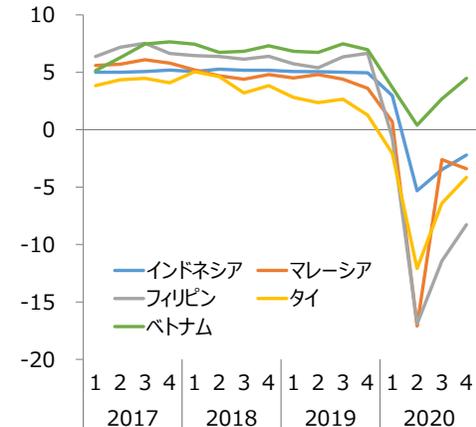
## 今回の結果

- 20年10-12月期の実質GDP成長率は、ベトナムが前年同期比+4.5%と成長を加速した(図表1)。一方、マイナス成長が続くフィリピン(同▲8.3%)、タイ(同▲4.2%)、インドネシア(同▲2.2%)では、マイナス幅は4-6月期をボトムに縮小傾向にあるが、特にフィリピンの戻りが鈍い。また、マレーシアでは同▲3.4%と、7-9月期同▲2.6%からマイナス幅が拡大する結果となった。

## 基調判断と今後の流れ

- ASEAN5経済は総じて4-6月を底に回復がみられているが、①感染状況(活動抑制含む)、②インバウンド産業への依存度、③輸出動向、の主に3点において、国ごとに明暗が分かれている。
- 感染拡大が顕著なマレーシアではほぼ全土で厳格な活動制限令が敷かれており、首都圏などでは3月4日まで実施される予定だ。フィリピンでも厳しい外出・移動制限措置が引き続きとられており、両国で消費活動の停滞が長引いている。
- インバウンド需要の高いタイやフィリピンでは観光産業の不振が深刻だ。両国とも観光産業での就業者の割合が2割を超え、サービス輸出だけでなく、雇用所得環境の悪化を通じた内需へのマイナスの影響も長期化する見通し(図表2)。
- 輸出回復もばらつきがある。ベトナムの輸出は昨年後半から好調を持続、21年1月は前年比+55.1%と大幅に増加した(図表3)。景気回復が進む中国向け輸出の高い伸びが輸出全体の伸びを牽引する格好となっている(図表4)。
- ベトナムでは米中対立下、中国から輸入した中間財に自国で付加価値を加え、最終財として米国に輸出するケースが増えており、ベトナムの米国向け輸出も好調だ。しかし、米国政府は20年12月、ベトナムを「為替操作国」に認定、米国向け輸出品に対する制裁関税が発動されるリスクが高まっており、注意を要する。
- ASEAN5では、ワクチン普及に時間を要することで経済活動の抑制措置が22年にかけて断続的に続くシナリオを想定、21年成長率は5%台半ばになると予測。

(前年比、%)



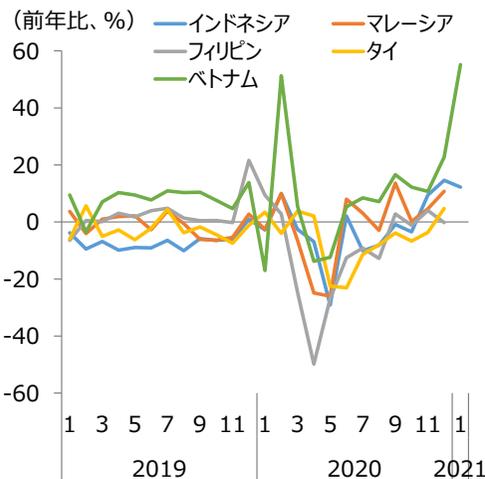
資料：CEICより三菱総合研究所作成

(%)	GDPに占める観光産業の割合	全輸出に占める国際旅行者支出	観光産業での就業者の割合
フィリピン	25.3	10.7	24.1
タイ	19.7	21.1	21.4
マレーシア	11.5	9.4	14.7
ベトナム	8.8	4.4	9.1
インドネシア	5.7	7.7	9.7

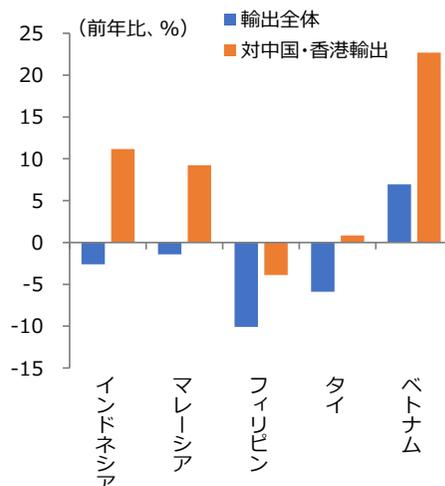
資料：WTTCより三菱総合研究所作成

## 3 輸出動向

## 4 輸出の伸び (20年)



資料：CEICより三菱総合研究所作成



資料：CEICより三菱総合研究所作成